

平成27年度 上田市立菅平小・中学校
学校自己評価の分析と考察 <前期>

※分析および考察中のA、B、C、Dは、「かなりできている(かなりそう思う)」・「どちらかといくと、できている(どちらかというといと、そう思う)」・「どちらかというといと、できていない(どちらかというといと、そう、思わない)」・「ほとんどできていない(ほとんど思わない)」に、それぞれ対応しています。

【教育活動】

§1 生徒指導

- ① <発見と啓発> 相手の良さに気づき、発信しているか。
(小) A・Bの合計は、C・Dを大きく上回っている結果となった。Dの理由に、「本人に伝えたりしゃべるのが苦手だから」や「はずかしくて言えない」という記述があり、“気づき”はあっても“行動(発信)”に移せないといった実態がある。
(中) A・Bの合計が、C・Dを大きく下回る結果になった。Dとした理由として、「言う必要を感じていない」、「その気持ちががない」という記述がみられた。思春期の中学生らしさが出ている。
- ② <相手意識のある挨拶> コミュニケーション能力を高めているか。
(小) A・Bの合計は、C・Dを大きく上回っている結果となった。児童会スローガン『笑顔であふれる学校生活を!』のもと、毎朝のあいさつ運動が功を奏していると思われる。
(中) 前項目に比べると、A・Bの合計がC・Dを大きく上回っている結果となった。生徒会でも児童会同様のあいさつ運動(毎週月曜日の朝)を行うことができかけ作りになっている。

<「§1 生徒指導」についての考察>

小・中学校ともに、“あいさつ運動”という形で、コミュニケーションのきっかけ作りは一定の成果があがっていると思います。更に、日常の仲間との関わりや良好な関係作りへと発展させるためにも、発達段階に応じた伝え方(コミュニケーション能力の向上)の指導を意識していくべきであり、日常化するためにも、児童会・生徒会のみならず、毎時間の授業の中でも意識させていきたいと考えます。

本校では、小学校は“日記”中学校では“生活記録”という課題があります。なかなか毎回とはいきませんが、キラリと光る文章に出会った時には、学級通信や学校だよりで紹介しています。今後、「仲間の良さを認める記述」を更に意識的に紹介することで、間接的な発信ととらえることができると思います。

§2 学習活動

- ③ <学習の約束> 学習習慣の定着は図られているか。
(小) A・Bの合計で8割を占めている。ここから「宿題は毎日やるべきだ」という意識の高さが伺える。一方で、Dが2%(実数で1名)ということも見られる。
(中) A・Bの合計で6割強といったところは改善が必要な点となっている。国・数・英は毎日の課題であるが、“とりあえず提出ノートを作る処理”を行うことで満足しているのではないかなと思える節もある。一方で、「やるべきことである」という気持ちは少なからず持っていることはDが0%ということから伺える。
- ④ <学力定着> 小・中学校の先生が連携して授業を行っているか。
(小) A・Bの合計で9割となっている。小学生にとって、教師が小・中のどちらの所属かということとは特に問題ではないのかもしれないが、C・Dの合計が1割はいるということは見逃せない。
(中) 中学生にとっても教員の所属というのは関係ないことかも知れないが、一般的に小学校の教師の方が、中学校の教師よりも分かりやすい言葉を使う傾向にはあることも、A・Bの合計で10割になる要因ではないか。
- ⑤ <授業改善> 分かりやすい授業になっているか。
(小) 子ども達は明らかに工夫を感じられる授業を求めていることが示された。
(中) 9割弱が工夫を求めているが、その傾向は小学校よりは弱いことが示された。

<「§2 学習活動」についての考察>

小学校に乗り入れている中学校教師は、より専門的なことを知っているあまり、会話を始めとするコミュニケーションへの要求レベルが適切になっているかどうかを考える必要があるのではないかな。小学校教師が分かりやすい言葉を使いこなせるということを実に受け止め、たとえ専門的な用語であったとしても、出来る限り平易な言葉を使うことを意識するのは、児童・生徒にとってマイナスにはならないだろうと考えます。

“分かりやすい授業”という観点では、小学校では、“授業へのがんばり”という観点と同様の傾向を示していることから、「子どものがんばり」と「教師のがんばり」は比例するのではないかなと思います。それは、教材研究をやればやっただけ子ども達が乗ってくれるという、教師にとっては“やりがい”に繋がることだと思います。更に、理解につながる工夫を心がけていきます。

§3 キャリア教育

- ⑥ <地域との交流> この地での生活に喜びを感じているか。
(小・中共通) 小学生のほとんどがこの地での生活に喜びを感じている。また中学生も小学生ほどではないが、概ねこの地での生活に喜びを感じている。
- ⑦ <地域を知る> 地域の産業を理解しているか。
(小・中共通) 段階的に学習は進んでいると思われます。

<「§3 キャリア教育」についての考察>

本校では、農業につながる学習は主として小学校で、観光につながるスキーを始めとするスポーツ関係は、小学校高学年ではクラブとして、また中学校では部活動として学習しています。これらを通して地域を理解し、発展に寄与する児童・生徒の育成をめざしたいと考え、カリキュラムを編成しています。しかし、短期間しか関われない教師だけの取組だけでは十分とは言えません。このことから信州型コミュニティスクール《TEAM SUGADAIRA》に寄せる期待は大きいといえます。

【学校運営・学校作り】

※表記が長くなるため、“小学校保護者”を「Ⅰ類」、「小学校教師」を「Ⅱ類」、「中学校保護者」を「Ⅲ類」、「中学校教師」を「Ⅳ類」と表記しました。

- ① 子どもの良さを見つけること
(小) Ⅰ類が自分自身を厳しくみていて一方でⅡ類への評価は高いため、Ⅱ類への自信につながっていると捉えると、上手に連携がなされていることを伺わせる。
(中) Ⅲ類のそれはⅠ類と同様の傾向であるが、Ⅳ類への見方はより厳しくなっている。それがⅣ類の自己評価と合致していることから、Ⅳ類の様子は具にⅢ類に伝わっていると思う。
- ② 優しく、厳しく子どもを導くこと
(小) ①と同様と考えられる。
(中) Ⅲ類の傾向は①と同様であるが、Ⅳ類の意識は①と逆転してくる。昨年度後期と大きく変化している点からも、反省をもとにして積極的に生徒に関わろうとする気持ちの現れと考えたい。
- ③ 楽しく分かる授業を創造すること
(小) 概ね①と同様と考えられるが、Ⅱ類の自己評価から見える自信は微妙に低下傾向にある。
(中) Ⅲ類の傾向は①と同じだが、Ⅳ類の自己評価からはこの部分では自信が回復傾向にある。
- ④ 地域と連携すること
(小) ①と同様と考えられる。
(中) Ⅲ類、Ⅳ類ともに同じ傾向を示していることから、同一歩調で進んでいると見て良いだろう。

<「学校運営・学校作り」についての考察>

教科担任制の色濃い中学校では関わりが分散されてしまいがちですが、教員一人あたりの生徒数が2.9人と上田市内他校と比べても格段に恵まれた状況となっています。(※1) また、小学校のそれは6.7人となっています。(※2)

この数字は単純に、児童・生徒数を教員数で割った数であり、小・中の乗り入れを考慮すると更に小さな数字になります。教職員の絶対数が少ない分、教員1人1人にかかっている校務分掌の負担は大きくなってきますが、それを考慮しても十分に余裕はあると考えられます。その余裕をもっと児童・生徒の理解に向ける必要があると言えます。今後も保護者の皆さんとの連携を大切にしながら、更に児童・生徒との関わりを大切にしていきたいと思えます。

なお、アンケートの記述に「なぜ、学校自己評価で“学校づくり”といいながら保護者の取り組みを問うのか？」とありました。昨年度までも同様な質問もあり、今年度は特に立場を分けて行ったため誤解を招いたり不愉快な思いをさせたりしたことが、この場を借りてお詫び申し上げます。しかし、「学校」とは単に場所であり、「学校づくり=人間づくり」と考えると、児童・生徒に関わる全ての人が協力して子どもを育てていく必要があると考えます。もちろんその評価によってどうこうするというのではなく、「この機会に一度は振り返ってみてはいかがでしょうか？」という願いから行いました。

後期にも同様なアンケートを行う予定ですので、腑に落ちないという方は空欄のままで構いません。ご納得頂けましたらご協力をお願い申し上げます。

※1…教師一人あたりの生徒数の最大は塩田中の16.1人。菅平を除く最小は真田中の11.6人。菅平を除く上田市内中学校の平均は14.0人。(H26年度)

※2…教師一人あたりの児童数の最大は神川小の22.5人。菅平を除く最小は西内小の7.6人。菅平を除く上田市内小学校の平均は16.5人。(同年度)

【その他】

- 学校生活のたのしさ
(小) 児童・保護者ともに概ね良好と捉える。ただし児童の2% (実数で1名) の存在が気になる。
(中) 小学校ほどではないが概ね良好と捉える。やはり生徒の17% (実数で4名)、保護者の9% (実数で2名)、職員の11% (実数で1名) の存在が気になる。

<「その他」についての考察>

昨年度の考察から、特に中学校では「自分が夢中になるためのスイッチを増やすことで充実感・達成感を味わってもらおう」ことに取り組んで来ましたが、多忙な一学期では取り組みが十分ではなかったと感じました。これからの二学期の充実期にかけて、改めて取り組んでいきたいと思えます。

なお、同時にとりましたくいじめ>に関するアンケートでも、中学校は全員から「なかった」という結果を頂きました。小学校では「あった」という結果を頂きましたが、その全てが「解決済み」と報告を受けています。また、全てに「なかった」という<体罰>ですが、今後も職員一同、体罰の撲滅に心がけて参ります。